

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
220021	X-31-B-1-220021			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1・3年次生】経営情報学部経営学科 【1・3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	× × × 専門 専門 × ×	× × × 選択 必修 × ×	× × × 1年 1年 × ×
授業科目	担当教員	2	前期				
情報とコンピューティング	宮北 和之						

授業目的

ICT の急激な発展・普及に伴い、ICT を活用して様々な情報が扱えるようになった。このような背景から、経済活動や情報発信はもとより、日常生活においても ICT が利用されている。したがって、ICT 関連の知識を習得することの重要性が増している。本講義の目的は、ICT 社会を生きるために必須となる ICT の基礎的知識を修得することにある。そこで、コンピュータの基本構成から情報社会におけるコンピュータの活用事例までを概括し、ICT 全般に関する基礎的知識を学修する。特に、IPA の実施する基本情報技術者試験の試験範囲も学修範囲とする。

各回の授業内容

第 1 回	【授】 コンピュータとは 【前・後】 復習に4時間。事後学習として教科書および配布資料を精読し不明点などを調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 9 回	【授】 コンピュータネットワーク 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 2 回	【授】 デジタルとアナログ 【前・後】 予習・復習に4時間。事前学習・事後学習として教科書および配布資料を精読し不明点などを調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 10 回	【授】 インターネット 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 3 回	【授】 情報理論 【前・後】 予習・復習に4時間。事前学習・事後学習として教科書および配布資料を精読し不明点などを調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 11 回	【授】 セキュリティ 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 4 回	【授】 論理回路 【前・後】 予習・復習に4時間。事前学習・事後学習として教科書および配布資料を精読し不明点などを調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 12 回	【授】 データベース 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 5 回	【授】 コンピュータアーキテクチャ 【前・後】 予習・復習に4時間。事前学習・事後学習として教科書および配布資料を精読し不明点などを調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 13 回	【授】 サービスマネージメント 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 6 回	【授】 オペレーティングシステム 【前・後】 予習・復習に4時間。事前学習・事後学習として教科書および配布資料を精読し不明点などを調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 14 回	【授】 情報通信システムの法制度と標準化 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 7 回	【授】 ソフトウェア開発とプログラミング 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 15 回	【授】 情報サービスの発展 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。
第 8 回	【授】 アルゴリズムとデータ構造 【前・後】 予習・復習に4時間。事後学習・事後学習として配布資料を精読し不明な用語を調べること。事後学習としてレポート課題に解答して、次回講義時に提出すること。	第 16 回	【授】 期末試験

成績評価方法

期末試験は各講義に沿った問題を数題出題し、全問の解答を求める。成績は期末試験結果(80%)と講義途中の提出レポート(20%)で評価する。課題の解法および参考答案を講義時に説明する。最終課題および期末試験については、参考解答を Campusmate に掲出する。

教科書・参考書

白鳥則朗、”コンピュータ概論（未来へつなぐデジタルシリーズ（17））”，ISBN 978-4-320-12317-5、共立出版（2013.1）。参考書・参考文献は、講義中に紹介する。

受講に当たっての留意事項

教科書を精読し、分からぬ用語を整理すること。毎回の講義で課すレポートの全間に解答することと、そのままでは理解できない。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		×

学習到達目標

- ・コンピュータ社会で生きるために必須となるコンピュータ技術の基礎的知識を習得できる。（期末試験とレポート 50%）
- ・コンピュータの基本構成から情報社会におけるコンピュータの活用事例を習得できる。（期末試験とレポート 25%）
- ・ICT 全般に関する基礎的知識を習得できる。（期末試験とレポート 25%）

JABEE

【授】：授業内容 【前・後】：事前・事後学習